

# 「かごしま黒豚」の歴史等について

## 「かごしま黒豚」の歴史

・天文15年(1546年)、ポルトガル人が鹿児島県山川に家畜として豚が存在することを記す。

・慶長14年(1609年)、島津家久が琉球\*1より豚を持ち帰る。

・元文3年(1738年)、ロシアに漂着したゴンザ\*2が露日辞典を編集し、豚に関する言葉も収録。  
(ハム=シヨシタプタ、豚肉=ブタンミ 等)

・弘化2年(1845年)、島津斉彬が徳川斉昭に豚肉を贈る。

・明治3年(1870年)、国がはじめて養豚を奨励する。

・明治25年(1892年)、鹿児島県が英国パークシャー種を奨励品種と定めて、在来種(黒豚)に交配して改良を図るとともに、純粋繁殖も行い普及。

・昭和24年(1949年)、枕崎から東京芝浦へ貨車による黒豚の生体輸送が始まり、その後東京において黒豚の名声が高まる。

・昭和30年代、戦後1回目の鹿児島黒豚全盛期。  
・昭和36年(1961年)、東京で食肉問屋等による「鹿児島黒豚販売会」の設立。

・昭和36年(1961年)、鹿児島県はスウェーデンから大型種ランドレースを導入。  
・黒豚は、白豚との交雑種生産に利用されるようになり、頭数が激減。

・昭和46年(1971年)、鹿児島県はパークシャー種の系統造成の取組を始める。

・グルメブームの到来で再び「黒豚」が脚光をあびる。

・平成2年(1990年)、鹿児島県黒豚生産者協議会が設立、平成4年(1992年)には、同協議会による「かごしま黒豚証明制度」が発足。

・平成11年、パークシャー純粋種のみ「黒豚」と表示できることとして、食肉小売品質基準(畜産局長通知)を改正。

\*1 当時、琉球(沖縄)や奄美では、全身真っ黒な毛に覆われた豚(島豚)が飼われていたといわれる。鹿児島県本土でも、明治になって英国パークシャー種が入るまで飼育され、鹿児島黒豚の源流といわれている。

\*2 ゴンザは、薩摩の船乗りの息子(当時10歳)で大阪へ向かう途中遭難。ロシアに漂着し、15歳の時に日本語教師となり、2年かけて露日辞典を編集した。

出典:「かごしま黒豚物語」、「鹿児島県養豚史」等をもとに作成

## 純粋種豚(繁殖用)の輸入頭数

	平成 9年度	10	11	12	13	14	15	16	17	18 (4~9 月)
輸入頭数	243	130	127	96	41	65	64	91	60	6
うちバーク シャー種の 輸入頭数	54	25	30	2	0	0	2	7	25	0

資料:財務省「貿易統計」

注1:輸入頭数は、関税分類番号010310000(純粋種の繁殖用のもの)の値である。

注2:バークシャー種の輸入頭数は、無税を適用する豚の証明書の発給頭数である。